2023年3月期決算説明会　質疑応答要旨

株式会社 テノックス

Q. 中期経営計画は2021年度、2022年度、2023年度予想いずれも数値目標未達となる要因は何か？
また要因への対策は何か？

A. 2021年度はコロナ禍の影響も少なくなかったが、2022年度、2023年度の主な要因の1つめは、鋼材やセメントなど原材料の価格高騰が原価を押し上げているため、計画した当初より利益率が落ちている。2つめは、ベトナムのロックダウンに加えベトナムの不動産業界で問題があり、海外事業の収益を見通せない。
原材料の価格高騰に対しては、顧客への価格転嫁を粘り強く進めている。海外事業については、現在事業の見直しを行っており、収益を上げられる事業展開を検討中。

Q. 受注状況は厳しくなっているのではないか？

A. 特に地盤改良工事の中規模以下の案件は、先行き不透明感がまだ拭えない状況であることから、目先の仕事を取りに来る中小規模の業者との競合が激しく、受注単価は厳しい。一方、基礎工事業界の中で当社は大型案件に対応可能な施工機台数や人員等を備えており、大型案件での競争力を有している。

Copyright © 2023 TENOX CORPORATION All rights reserved.

2023年3月期決算説明会　質疑応答要旨

株式会社 テノックス

Q. 北海道新幹線延伸事業や関西の交通インフラ整備関連は、いつ頃まで続くのか？

A. 北海道新幹線延伸事業は、2024年度まで相当な工事量が見込まれる。関西の交通インフラ整備は、大阪モノレール、新名神高速道路などが同じく2024年度まで見込まれる。

Q. イビデンなど民間の工場は、今期分、来期分の見通しは立てられない状況か？また、半導体関係の工場が出てきた場合、相関係数1で受注できるのか？

A. イビデンは前期に大きな売上を計上し、今期も元請が別である工事の売上が上がる予定。
半導体関係の工場については、今期も地盤改良工事で受注が見込まれる。なお、九州エリアはテノックス九州が事業を行っているため、TSMCはノータッチ。今度ラピダスが北海道に工場を建設するが、工場本体の基礎工事は主にコンクリート杭になる見込みで、当社は付帯建屋で出番の可能性がある。
営業面で色々な提案をして受注に繋げている。引き続き顧客のニーズに応え、施工面では安全や品質管理に取り組んでいきたい。

Copyright © 2023 TENOX CORPORATION All rights reserved.

2023年3月期決算説明会　質疑応答要旨

株式会社 テノックス

Q. 今期営業利益率が改善する要因は何か？

A. 1つは、グループ内で資産情報を共有（見える化）し、過剰な資産を持たないなどでコストダウンを図る。もう1つは、安全や品質面でトラブルが発生すると工期に影響し利益を毀損することから、安全や品質管理にしっかり取り組むことで利益率を改善していく。

Q. 顧客への価格転嫁は受け入れられにくい状況なのか？

A. 原材料の価格高騰要因の1つがウクライナ情勢であることをきちんと説明すれば、顧客から理解は得られる。尚且つ、ただ単に価格の転嫁をお願いするだけでなく、元請にメリットが出るような提案（工期面や残土排出量低減など）をしながら価格の転嫁をお願いすることを考えている。

Copyright © 2023 TENOX CORPORATION All rights reserved.

お問い合わせ先

株式会社 テノックス

IRに関するお問合せ

- IR担当部署　企画情報推進部　予算・IRグループ
- E-mail　ir@tenox.co.jp
- URL　https://www.tenox.co.jp/contact/contact_ir/
- ホームページ　https://www.tenox.co.jp/

Copyright © 2023 TENOX CORPORATION All rights reserved.